

【2019年】

小学生が地下ダムの仕組みを学習（第8回夏休み野外学習会）

沖縄総合事務局土地改良総合事務所では、令和元年8月1日(木)国営事業で造成した農業用の地下ダムがある糸満市、八重瀬町の小学生とその保護者を対象とした夏休み野外学習会を開催しました。8月2日(金)(参加予定者35名)も開催を予定していましたが、降雨や雷のため中止になりました。

糸満市にある米須（こめす）地下ダム、八重瀬町にある慶座（ぎいざ）地下ダム、仲座（なかざ）ファームポンド、仲座加圧機場を回りながら、施設管理者の沖縄本島南部土地改良区と共に、地下ダムができてから変わってきたこの地域の農業の様子や、施設が果たしている役割などを説明しました。参加した小学生たちは、「地下ダムの貯水量は学校のプール何杯分なのか」といった3択クイズに元気に回答し、保護者たちは地元産の野菜や果物の生産に地下ダムが貢献していること等に聞きいてました。

また、慶座地下ダムでは、地下ダム止水壁を越流している水に触れたり、生息するエビやカニを見つけて歓声を上げていました。

今回の野外学習会には、38名(小学生22名、保護者16名)の参加がありました。解散時に回収したアンケートでは、「スタッフのせつめいがとても分かりやすく、いろいろ知ることかできた。地下ダムを造るという、発想がすごいと思った。(小学生)」、「私達の食卓に食べ物がそろうのは、色々な働きがあって支えられている事に、改めて感謝する事ができた。この施設を造れる日本は幸せだー。(保護者)」との、PRの手応えを実感させる感想もありました。

当所では、今後も学習会を開催していくこととしています。

